

初の職業写真師の上野彦馬、コニカ創業者の小西六右衛門、
グラフィ誌「NIPPON」の名取洋之助：

日本の写真家

近代写真史を彩った人と伝記・作品集目録

東京都写真美術館 監修

■初めての集大成■

日本写真史に名を残す八三九人

- ・江戸時代の写真伝来以降、日本の写真史に名を残す人物を集大成した初の人名事典。
- ・写真家、写真評論家、写真編集者、写真研究者、写真産業関係者など八三九人を収録しました。

「経歴」と「伝記・作品集目録」で詳細な人物調査が可能に！

- ・それぞれの人物には、詳しい経歴に加え、写真集・写真関係の著作や展覧会図録、伝記、評伝、自伝などの情報を収録した文献目録も掲載。人物を深く知ることができます。

【収録人物例】 秋山 庄太郎/五十嵐 与七/石井 幸之助/石元 泰博/伊奈 信男/稲村 隆正/入江 泰吉/岩宮 武二/植田 正治/瑛九/大辻 清司/岡田 紅陽/岡田 桑三/岡村 昭彦/小川 一真/鹿島 清兵衛/金丸 重嶺/鎌田 彌壽治/菊池 真一/北庭 筑波/木村 伊兵衛/熊谷 元一/桑原 甲子雄/小石 清/河野 徹/小島 一郎/笹本 恒子/塩谷 定好/重森 弘淹/菌部 澄/武林 盛一/田嶋 一雄/棚橋 紫水/田淵 行男/塚本 閔治/徳川 慶喜/富岡 畦草/中村 正也/中村 立行/中山 岩太/成沢 玲川/野島 康三/萩原 朔太郎/ハナヤ 勘兵衛/濱谷 浩/林 忠彦/早田 雄二/日高 長太郎/福島 菊次郎/福田 勝治/福原 信三/淵上 白陽/フェリーチェ・ベアト/堀 真澄(大阪屋与兵衛)/前田 真三/緑川 洋一/村山 知義/安井 仲治/山岸 章二/山端 庸介 …など839人

東京都写真美術館監修シリーズ

- 現在活躍中の写真家・写真評論家など1,512人のプロフィール

現代写真人名事典

A5・600頁 定価13,440円(本体12,800円) ISBN4-8169-1949-X 2005.12刊行

- 幕末から現代まで、代表的な人物写真18,902点の収録写真集を調べられる写真索引

写真レファレンス事典 人物・肖像篇

B5・880頁 定価44,100円(本体42,000円) ISBN4-8169-1904-X 2006.3刊行

B5・490頁 定価9,975円(本体9,500円)
ISBN4-8169-1948-1 2005.11刊行

2006.04

●お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業本部 TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

■書店名	注 文 書	日本の写真家—近代写真史を彩った人と伝記・作品集目録 定価9,975円(本体9,500円) ISBN4-8169-1948-1	冊
		現代写真人名事典 定価13,440円(本体12,800円) ISBN4-8169-1949-X	冊
		写真レファレンス事典 人物・肖像篇 定価44,100円(本体42,000円) ISBN4-8169-1904-X	冊
		■お名前	

どもん

土門 拳
どもん けん

明治42年10月25日～平成2年9月15日



* * *

写真家

田山形県飽海郡酒田町（酒田市）

家弟＝牧直視（写真家），妻＝土門たみ（土門拳記念館館長）

師＝宮内幸太郎，名取洋之助

学日本大学専門部法科（現・法学部）〔昭和6年〕中退

歴画家を志すが家庭が貧しく、中学卒業後は常磐津三味線弾きの内弟子や弁護士事務所の書生などを転々とする。日本大学の夜学に進むが中退。昭和7年全農全国運動本部書記補となったが、間もなく検挙・拘留された。8年母の勧めにより東京・上野の宮内幸太郎写真場の内弟子となり、独学で写真の基礎を研究。10年名取洋之助が主宰する日本工房の募集に応募して宮内の下を脱走、日本工房に入社。英文の対外宣伝誌「NIPPON」などに寄稿し、名取に師事して報道写真を学ぶが、最後までそりが合わず、14年退社。この間、陸軍大臣の宇垣一成を撮影した写真を米国のグラフィック誌「LIFE」に投稿、採用された。同年外務省の外郭団体である国際文化振興会嘱託となり、美術史家の水沢澄夫と初めて奈良の室生寺を訪れ、ライフワークとなった古寺巡礼の撮影を開始。15年からは文楽の撮影にも取り組み、日本の伝統文化の撮影に力を注いだ。18年、後年「風貌」にまとめられる人物写真で第1回アルス写真文化賞を受賞。20年6月召集を受けたが、持病の痔のため即日帰郷となった。戦後はフリーとして活動を再開。25年桑原甲子雄が編集長を務める「カメラ」誌の月例写真審査員に起用され、「絶対非演出の絶対スナップ」「カメラとモチーフの直結」を唱えて木村伊兵衛とともにリアリズム写真運動を主導、アマチュア写真家たちに大きな影響を与えた。30年には初の個展「江東のこどもたち」を開催。32年「週刊新潮」の取材で初めて広島を訪れて衝撃を受け、33年原爆被災をテーマとした写真集「ヒロシマ」を刊行、日本写真批評家協会作家賞、毎日写真賞、日本写真協会年度賞を受賞す

ストセラーとなった。しかし34年脳出血で倒れて右半身不随の後遺症が残ったため以前のように自在にカメラを操れなくなり、以降は三脚に据える大型カメラを用いて古寺巡礼を再開。43年には2度目の脳出血で倒れたが、執念で車いすでの撮影を続けた。51年「古寺巡礼」が全5巻で完結。54年3度目に脳血栓で倒れると意識不明のまま11年間眠り続け、平成2年没した。この間、56年毎日新聞社により土門拳賞が創設され、58年には出生地の酒田市に世界でも例がない個人の写真美術館・土門拳記念写真館が設立された。対象を凝視し、「土門拳」という個性が滲み出たドキュメンタリー写真で一世に屹立、日本の写真界に大きな足跡を残した。他に写真集「室生寺」「東大寺」「文楽」、著作「死ぬことと生きること」「写真作法」「写真批評」などの他、「土門拳全集」（全13巻）がある。ニッコールクラブ会員、日本写真家協会名誉会員

賞アルス写真文化賞（第1回）〔昭和18年〕「風貌」、日本写真協会賞（第5回）〔昭和30年〕、毎日出版文化賞（第9回）〔昭和30年〕「室生寺」、日本写真批評家協会作家賞（第2回）〔昭和33年〕「ヒロシマ」、毎日写真賞（第4回）〔昭和33年〕「ヒロシマ」、芸術選奨文部大臣賞〔昭和35年〕、日本写真協会年度賞（第10回）〔昭和35年〕「ヒロシマ」「筑豊のこどもたち」、毎日芸術賞（第2回）〔昭和36年〕「筑豊のこどもたち」「るみえちゃんはお父さんが死んだ」、報道写真金メダル賞（昭和35年度）「ヒロシマ」、菊池寛賞（第19回）〔昭和46年〕「古寺巡礼」、酒田市長名誉市民〔昭和49年〕、仏教伝道文化賞〔昭和54年〕、朝日賞〔昭和54年〕

賞紫綬褒章〔昭和48年〕、勲四等旭日小綬章〔昭和55年〕

【写真集・著作】

- ◇風貌 土門拳著 アルス 1953
- ◇室生寺 土門拳撮影、北川桃雄文 美術出版社 1954 図版56p 54p 36cm
- ◇ヒロシマ 土門拳著 研光社 1958 図版128p 解説47p 36cm
- ◇現代日本写真全集 2 土門拳作品集 座右宝刊行会編 東京創元社 1958 図版32p 解説15p

【参考文献】

- ◇土門拳—その周囲の証言 アサヒカメラ編集部編 朝日ソノラマ 1980. 7 324p 19cm 年譜
- ◇土門拳を撮る—八木下弘写真記録 八木下弘著 築地書館 1982. 1 115p 27cm

らマンたちの昭和史—写真家物語 小堺昭三著